

なな山だより

なな山緑地の会会報 第2号 2006・1

なな山10大ニュース

会の発足以来の出来事から、編集委員の独断と偏見でトップ10を選んでみました。約2年の間にいろいろあったものだと思います。今年も思いを新たにして、皆で力を合わせて、なな山緑地を守り、育てていきましょう。



なな山10大ニュース

編集委員選定

1. 助成金により、備品、機材の充実
 2. 散策路完成。総延長200m
 3. 境界の柵完成
 4. シイタケ、ナメコのホダ木本伏せ
 5. 水辺作り、池の完成
 6. 畑作りとサツマイモの収穫
 7. 落ち葉囲いの完成
 8. 小学校、保育園の自然観察会開催
 9. ログミルの導入、板材の製作
 10. 「なな山だより」の創刊
- 番外 スズメバチの巣発見

写真説明

左上: シイタケのホダ木

左中: サツマイモの収穫

右中: 小学生の自然観察

左下: 落葉囲い

右下: ログミルの試運転



園児、児童「なな山緑地」を訪れる



なな山を訪れる子どもたちが最近増えています。

4月19日竜ヶ峰小学校の3～4年生が引率の先生となな山を訪れました。みんなで楽しく遊びました。

9月17日と18日に百草団地内の桜ヶ丘保育園園児25名が園長さんと3名の職員と一緒になな山に来て虫取りをしたり、山をかけまわったりして遊びました。

10月12日には竜ヶ峰小学校の3～4年生19名と引率の先生2名が総合学習授業としてなな山緑地で自然学習を行いました。

12月3日には多摩第二小学校の父母会主催の自然体験として児童42名父兄19名、および副校長先生が訪れました。

子どもたちは山をかけまわり、カブト虫の幼虫さがしたり、落ち葉をあつめたり、サワガニをみつけたり、またスズメバチの巣をのぞいたり、ノコギリで木を切ったりと楽しいひとときをすごしました。これからも「なな山緑地」が自然に接しながらいろんな体験をして自然の大切さを感じ、里山に親しみを持ってくれる場所として多くの子どもたちに役立つことを願っています。
(高木記)

写真：多摩第二小学校の子どもたち
上、説明を熱心に聞く
下、こんなに大勢で来てくれました



なな山緑地これまでの活動記録

2003年12月14日初めて作業してから、2年が経ちました。これまでの活動記録を掲載します。紙面の都合から、2004年12月までとします。次号以降順次掲載の予定です。
(記録 戸谷)

2003年12月14日参加	8名	境界、里山の全体像を確認、下草刈、除伐、枯木片付け、ベンチ試作
12月21日	7名	下草刈、梅林手入、倒木片付け、間伐、ごみ集め、東側斜面階段付け
2004年1月25日	12名	林全体整備、間伐、下草刈、林床片付け、階段完成、落ち葉囲い着手
2月8日	15名	梅林手入、区画整理、下草刈、間伐、落ち葉囲い2ヶ所完成
2月22日	10名	落ち葉囲い製作とくず掃き、落ち葉囲い3ヶ所目完
3月14日	11名	落ち葉囲い製作とくず掃き、落ち葉集め、間伐、落ち葉囲い4ヶ所目完成
4月10日	13名	なな山緑地の会設立総会、自然観察、腐葉土作り、丸太の皮むき
4月24日	11名 + 49名	グリーンボランティア講座、下草刈、間伐、皮むき、ごみ集め
5月9日	11名	物置設置、自然観察、西の谷奥片付け、道路側柵作り
6月12日	11名	自然観察、草刈、道路側草刈、枝打ち
7月11日	10名	散策の道作り東側、チップ敷き、橋3ヶ所完成
8月14日	12名	散策の道作り梅林付近、下草刈、チップ敷き
9月14日	9名	道作り東尾根、下草刈、堆肥運び出し、道路側柵作り着手
10月23日	11名	道作りと修復、東側道修復、西側溝泥さらい
10月31日	4名	(臨時)散策路(西)延長、間伐
11月6日	6名	(臨時)間伐、道作り、自然観察、樹木名札付け
11月14日	8名	散策路繋がる、下草刈、下水溝整理
11月27日	9名	林全体の下草刈、枝打ち
12月12日	12名	梅林下草刈、道作り(西側)、付近の民家に危険な木の伐採
12月25日	14名	梅林整理、正月飾り設置、梅剪定、伐採、丸太テーブルと椅子製作

ススキ *Miscanthus sinensis* Anderss. イネ科



ススキ なな山緑地にて撮影

9月に入ると、なな山では若いススキが美しい。晩秋になると逆光に白く光る姿が一段と輝きを増す。ススキはハギとともに、どこでも見られる日本の秋草の代表である。「宗達・光悦金銀泥下絵和歌色紙」は京都嵯峨野の秋を彷彿とさせる。当時ここには本阿弥光悦、依屋宗達、角倉素庵らの別邸があり、戦を避けて茶会を催し、書院にて古今東西の書を読み、野の草に魂を奪われ心を震わせて描くという俗世を離れて時を過ごし、また都塵をはらって自己研鑽を積む場所となっていた。この色紙はそうした時間を嵯峨野で過ごした絵師と能書家による作品だ。



宗達・光悦金銀泥下絵和歌色紙

ススキの原に沈みゆく下弦の月が金銀泥で描かれた宗達の下絵、それに光悦が「新古今和歌集」の一首を散らし書きしたもの。優艶な世界を醸し出した往時のコラボレーションである。

このようにススキは秋のモチーフとして絵画に、文学に、工芸にと、日本文化のさまざまな場面に登場してきた。現在は使われることは少なくなったが、ほんの数十年前までは茅葺き屋根として日常的に使われてきた。いたんだ屋根の茅はそのまま堆肥として田畑で使われたという100パーセント循環利用され、生活に欠くことのできない重要な植物であった。しかし近年では顧みられることもなくアメリカからの帰化植物、セイタカアワダチソウに駆逐されると聞く。

セイタカアワダチソウに日本の秋景色を奪われてはたまらない。

掘り出しましたスズメバチの巣

11月13日(日)なな山の西斜面でスズメバチがうなりをあげて飛び回っていたのを発見、「立ち入り禁止」の立札を入口二カ所に出した。翌日、高木会長が多摩市へ連絡し、業者による駆除が行われた。

11月27日(日)ボランティアのメンバーの一人が巣の近くでスズメバチが飛んでいるのを発見。駆除中に、たまたま外にいたスズメバチが死を免れ、戻ってきたものと思われる。



掘り出されたスズメバチの巣

12月11日(日)気温が低かったので、生き残りのスズメバチも動けなくなっているであろうという推測のもと、巣を掘り起こす。巣は雑木林の中、ソダ木などの小枝が重なり、朽ちかけている土の中だった。巣の入口にはハチが土を掘り出したような痕跡があった。入口自体はほぼ10cm四方。周りの土を少しずつ取り除いてみると、かなり大きいことがわかり、シャベルを使って全体を掘り出した。

すでに死んでいるスズメバチ数十匹がゴロゴロしている。巣は木の枝に吊り下がるように作られ、大きな巣が5段と最下部に1段小さい巣が付いていた。



体長4cm、羽を広げたら5cmはあるか！

直径30cm、高さ35cm その上に5cmの突起が付いている。六角形の幼虫保育室の深さは2cmから4cm。スズメバチの体長は4cmであった。

スズメバチの主な種類にはオオスズメバチ、ヒメスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチなどがあるが、これはスズメバチの中で最も大型のオオスズメバチだと思われる。非常に強力な毒を持ち、かつ攻撃性も高いことから注意が必要といわれている。巣が使用されるのは1年限りといわれている。今年も作業する時は、スズメバチに十分注意しなければならないようだ。

世界に広げよう会員の和

リレー随筆(2) 散策路 馬場太弥

里山は外側から見ても癒されるが、中に入って歩くともっと心が癒される。その里山でボランティア活動ができるなんて、こんな楽しいことはない。なな山に係わって散策路作りをするようになり、この林の中に散策路が完成したら、四季の里山の様子がさらによく観察できることを想像しながら毎回参加している。初めの道作りは、間伐材の丸太を、約1m幅に並べて、チップを敷いて作業を進めていた。多人数で2～3班に分かれて作業をしたので、作業の進行は早かった。季節は過ぎ、秋になり、台風が通過した。散策路に敷いたチップは流され道は川になっていた。道を作っている時、何ヶ所かの窪地に丸太を並べて、橋を掛けた。



散策路作りで作業する筆者(手前)

林の中をこんな大水が流れるなんて、想像できなかった。大雨を体験して、それからは地形を読みながら橋の増設や補修をして道が川にならないように排水路を作って行こうと思う。傾斜地では階段になるが、階段をつけようかつけまいかと、迷う斜度がある。冬になり霜が降りて溶ければ滑る。そういう場所には取り敢えず落ち葉や草を敷いておき、あとで補修工事をする。現在手がけている場所は北側で既設の排水路を生かして、その上流部に排水路を新設しながら道を補強して、大雨でも流れないように工夫して作っている。

次の回はいつもスマートな長尾さんにこの欄の執筆をお願いしたいと思います。どうぞよろしく。

トピックス

新しい会員が4名入会されました

多摩市グリーンボランティア講習の第4期生のなかから、次の4名の方が「なな山緑地の会」に入会されました。

上田春子さん、白石 功さん、中瀬剣正さん、渡辺伊佐夫さん。

会員一同、大歓迎です。新しい仲間と仲良く、楽しく活動していきましょう。これで会員数は34名になりました。

グリーンボランティア講習中級編終了

昨年8月から12月まで5ヶ月にわたって実施されたグリーンボランティア講座中級編に、なな山緑地班から4名が参加しました。

刈払機・チェーンソーの使い方やメンテナンス、樹木の剪定法、救急法、リスクマネジメント、リーダーの心構え、などを学び、12月3日に終了しました。今年も開催されますので多くの方の参加をお勧めします。

なな山緑地の会の活動は、毎月第2、第4 日曜日、朝9時からです。

なな山だより 第2号

発行所

発行責任者

住所

編集委員

平成18年1月8日発行

なな山緑地の会

高木直樹

多摩市和田1394-13

鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

明けましておめでとうございます。今年も、「なな山だより」の一層の充実をめざして編集委員一同努力いたします。皆さんの原稿を心からお待ちしています。 K・N・T